

OneF自動車事業推進活動の取り組みと 今後の発展に向けて



木村隆秀*
Takahide Kimura

古河電工グループは、2013年度にスタートした中期経営計画Furukawa G Plan 2015にて「自動車／インフラ」を注力分野と定め、2016年度に発表した中期経営計画Furukawa G Plan 2020では、「自動車／インフラ」分野のみならず、その融合領域への注力も加速しています。

この「自動車／インフラの融合領域」での新事業／新製品創成活動をリードしてきた組織が、2015年4月に設立されたグループ横断的組織である「OneF自動車事業推進チーム」となります。

古河電工グループの4つのコア技術であるメタル、ポリマー、フォトニクス、高周波から生まれた情報通信、エネルギーなどのインフラ関連技術と自動車関連技術の融合にむけたOneF自動車事業推進チームの三年間の活動成果として、古河電工グループでは既に周辺監視レーダやバッテリー状態検知センサ、高信頼性アルミワイヤーハーネス及びその専用端子などを上市しており、本特集号ではこれらの成果のいくつかについてご紹介いたします。

現在、自動車業界はCASE(Connected, Autonomous, Shared, Electric)というキーワードに代表されるように100年に1度の大変革期を向かえています。従来は自動車関連とは無縁とされていた事業分野において

も次々と新しいビジネスチャンスが生まれています。OneF自動車事業推進チームではお客様との緊密なネットワークならびに古河電工グループの差別化技術を活かして、自動車関連のお客様に新たな価値提案を進めてきました。本特集号では、その代表例として、当社の独自技術であるマイクロ発泡技術を応用した快適照明空間の提案、ヒートパイプ技術を進化させた放熱蓄熱ソリューションの提案、自由度の高い非接触給電の提案についてご紹介いたします。

近い将来、5Gの実用化により高速大容量でかつ高信頼・超低遅延・同時多数接続が可能となると、自動運転やコネクテッドカーを活用した新たなモビリティ社会の実現に向けて、自動車関連技術とインフラ関連技術(情報通信／電力)の融合がますます重要になってきます。

古河電工グループは、『進化する「安心・安全・快適な社会」を「つたえる・つなぐ・たくわえる」技術で実現する』べく、新技術の発信地である北米を中心に情報通信事業でグローバルな事業基盤を持っている強みを活かし、パートナーとのオープンイノベーションを積極活用して、OneF自動車事業推進チームの活動をさらに深化させていきます。

* 取締役兼執行役員専務 戦略本部長兼同本部OneF自動車事業推進チーム長